

P-005

保育園看護職のための研修会の評価と課題
-Covid-19アウトブレイクにより中断した
研修会の再会から見えてきたもの-相墨 生恵¹、岩渕 光子¹、菊池 陽子²、澤口 宏美³、
袖林 典子⁴、石田真紀子⁵¹岩手県立大学 看護学部²遠野市病児等保育施設³本宮保育園⁴雫石保育園⁵遠野保育園

【はじめに】

我々は2013年より保育園看護職のための研修会を開催している。Covid-19の出現によって研修会を中断せざるを得なかったが、2022年10月より再開することができた。本研究は、緊急事態下での2年半の中断を経て再開した研修会について、開催側の目的及び保育園看護職者の今のニーズに沿った構成であるかを検証し、より効果的な研修への示唆を得ることを目的とした。

【方法】

研修は回ごとにテーマを決め、講義、実践報告と演習(グループワーク:以下、GW)で構成している。2022年10月(感染対策)、2023年6月(虐待の早期発見)、10月(口腔機能の発達)の研修会後に無記名質問紙調査を実施した。調査内容はテーマの適切性、実践での活用のしやすさ等(5段階のリッカート尺度)とその理由およびGWに対する意見(自由記載)である。自由記載については、質問別に意味のある文脈ごとに抜き出し、類似性に基づき分類し、ラベルをつけ分析した。倫理的配慮については個人が特定されない形で公表する旨を質問紙に記載し、配布の際に無回答でも不利益を被らないことを口頭で説明した。回収方法は自身で回収箱に投函することで、本人の自由意思を担保した。

【結果・考察】

テーマは適切か、について9割以上が「とてもそう思う」「そう思う」を選択していた。Covid-19に関連して感染対策および虐待をテーマとしたことが『タイムリーな内容』と評価されていた。またコロナ禍にあっても、発達をテーマとした研修を「気づく機会になる」ため適切と評価していた。GWが良かった理由は「他園の対応が知れる」「安心や活力につながる」などであり、GWが実践に活用できる理由は「具体的な取組みをイメージできる」「具体的に知れて参考にできる」であった。また感染対策の回では「自分の実践の確認ができる」であり、自由記載では『もっと早く集まって情報交換したかった』の他『集まることができただけでよかった』『専門的な会話をすることができ、それが一番よかった』など場への感謝があった。保育園看護職にとっては、同職種同士で情報共有することが、知識や情報を得るだけでなく自分の実践を確認でき安心や自信につながっていた。一人職が多いという特殊性も踏まえつつ、研修会は新しい知識を学ぶだけでなく、日々の自身の実践を互いに確認しあえる場としての役割も必要と考えられた。

P-006

保育所保育士の小児-次救命処置の
知識と自信への関連要因に関する
横断研究山田 恵子¹、山田 真衣²、住吉 智子³¹新潟県立看護大学²新潟医療福祉大学³新潟大学大学院 保健学研究科

【目的】

教育・保育施設等における重大事故発生時には、正しい知識を持ち自信をもって救急対応に臨める保育士がいることが望ましい。本研究は、新潟県内における保育所保育士のPBLSの知識と自信と、その関連要因を明らかにすることを目的とした。

【方法】

2023年3-6月新潟県内45保育所に勤務する保育士608人に調査用紙を配布した。質問内容は、対象者の基本属性、保育所の規模や立地、保育所の危機管理等とした。またPBLS知識は基本的な知識問題6問、PBLSの自信は手順に即した17問とした。これらを得点化したものを「PBLS知識と自信」(0-23点)とした。また、ワーク・エンゲイジメント尺度(以下UWES)を用いた。

分析方法は、単純集計、「PBLS知識と自信」の算出と、各項目の比較はt検定を行った。次に「PBLS知識と自信」を従属変数として単回帰分析で有意差があった項目を独立変数とした変数減少法による重回帰分析を行った。いずれも有意水準は5%とした。

倫理的配慮：本研究は、新潟県立看護大学倫理委員会の承認(022-12)を得て実施した。

【結果】

回収は250件、うち「PBLS知識と自信」に欠損値がない225件(90.0%)を対象とした。年齢は50代以上32.4%、保育士経験年数10-19年34.7%とベテランの多い集団であった。「PBLS知識と自信」と各項目におけるt検定では、PBLS受講経験は受講ありが有意に高く($p<.001$)、ほか6項目で有意差がみられた。重回帰分析では、「PBLS知識と自信」を従属変数として、独立変数は単回帰分析で有意差が見られた8項目を投入した。その結果、AEDの有無が除外されたモデル2の回帰性は有意($p<.001$)であった。予測要因として、PBLS受講経験($p<.001$)、UWES合計の平均($p<.001$)、救急車到着10分以上/以内($p<.001$)の3変数で有意な影響を確認できた。

【考察】

保育所保育士の「PBLS知識と自信」と各項目の比較では、危機管理体制が整備された保育所の常勤保育士ではPBLSの学習機会に恵まれやすい環境であると考えられた。関連要因として、個人要因(PBLS受講経験、仕事へのやる気)と施設要因(消防署の近さ、渋滞の影響を受けにくい立地)が明らかとなった。

本研究はJSPS科研費JP22K10389の助成を受けた。